関係各位

６，２１３人が投票した「第 48 回衆議院議員総選挙・模擬選挙２０１７」の結果(暫定)について

2017 年 10 月 31 日
模擬選挙推進ネットワーク

「18 歳選挙権」として初めての総選挙となった第 48 回衆議院議員総選挙。急な解散・総選挙となったこともあり、学校での政治教育の取り組みに注目が集まりました。

模擬選挙推進ネットワークは 10 月 22 日(日)投開票の**「第４８回衆議院総選挙」において、未来の有権者(投票日当日に 17 歳以下)を中心にした「模擬選挙２０１７」の実施を、全国の学校等に呼びかけ**ました。

模擬選挙推進ネットワークは、2002 年の町田市長選挙で模擬選挙に取り組んだことを契機に、2003 年の総選挙からすべての国政選挙で模擬選挙の実施呼びかけを行ってきています。国政選挙での模擬選挙の実施は、今回 11 回目(衆議院総選挙６回、参院選５回)となります。今回の模擬選挙での投票者数を加えますと、これまでに７万人以上の方が投票したことになります。

投票結果(暫定)は、以下および次ページ以降のとおりです。

２０１７年１０月３０日(月)　午後６時現在　※学校行事等により結果が送付されていない学校があります

〇投票総数：６，２１３票　／　有効投票数：６，０２４票、白票・無効票数：１８９票

〇対象は主に投票日当日に 17 歳以下の未来の有権者であるが、すでに有権者(18 歳)になっている高校 3 年生や、大学生なども投票している

〇比例区のみを全国集計した

〇投票数を記載したものは別紙

投票方法		自民	立憲	希望	公明	共産	維新	社民	こころ	大地	幸福	支持政党なし	有効票小計	無効白票	総投票数
実際	結果	18,555,717	11,111,806	9,650,608	6,977,712	4,404,081	3,386,467	941,324	85,552	226,552	292,084	125,019	55,756,922		
	割合	33.3%	19.9%	17.3%	12.5%	7.9%	6.1%	1.7%	0.2%	0.4%	0.5%	0.2%	100.0%		
模擬全体	結果	2184	707	1162	463	536	428	159	94	0	133	158	6024	189	6213
	全体割合	36.3%	11.7%	19.3%	7.7%	8.9%	7.1%	2.6%	1.6%	0.0%	2.2%	2.6%	100.0%		

(注1)実際の結果における比例区の得票数を使用し、得票数はNHKのホームページを参照している
(注2)実際の比例区は全国11ブロックに分かれているが、模擬選挙においては全国集計する都合上、比例区11ブロックの得票数を合算し、割合を算出している
(注3)模擬選挙では全国集計するため、立候補しているブロックが限定されている政党(大地:北海道、こころ:東北・東京、支持政党なし:東京)もまとめている

＜模擬選挙全般に関する問い合わせ＞※模擬選挙推進ネットワークは、特定の政党・宗教団体などの影響下にはない中立・公平・公正な団体です
模擬選挙推進ネットワーク　代表・事務局長　林大介
090-1991-7458　dhayashi1976@gmail.com　http://www.mogisenkyo.com/

＊実施学校、団体

・小学校　1 校(参考　2016 参院選：0 校　　＋1)
・中学校　9 校(参考　2016 参院選：9 校　　±0)
・高　校　19 校(参考　2016 参院選：39 校　－20)
・大　学　3 校(参考　2016 参院選：4 校　－1)

※学校名の公表が可能な、実施学校

＊北海道
札幌龍谷学園高等学校
＊埼玉県
立教大学(新座キャンパス)
＊千葉県
芝浦工大柏中学校／芝浦工大柏高等学校／千葉県立小金高校／鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷中学校
＊東京都
駒場東邦中学校／駒場東邦高等学校／玉川学園小学部／玉川学園中学部／玉川学園高等部／都立戸山高等学校／都立高島高等学校／山崎学園　富士見中学中学校／山崎学園　富士見高等学校／和光高等学校
＊長野県
県立松本工業高校
＊富山県
片山学園高等学校
＊愛知県
名古屋大学教育学部附属中学校／名古屋大学教育学部附属高等学校
＊三重県
三重県立桑名西高等学校
＊滋賀県
近江兄弟社高等学校
＊京都府
立命館宇治中学校／立命館宇治高等学校
＊大阪府
平安女学院大学短期大学部
＊兵庫県
県立兵庫高等学校／県立尼崎小田高等学校
＊鳥取県
公立鳥取環境大学
＊高知県
太平洋学園高等学校

＊集計済学校、団体　※2017 年 10 月 30 日午後 6 時現在

・小学校　1 校
・中学校　7 校
・高　校　19 校
・大　学　3 校

※模擬選挙を実施した学校において「模擬選挙の結果を外部には公表していない」場合は、集計に含んでいません

＊(生徒)模擬選挙で一票を投じた投票理由等　※抜粋(理由がない政党有)

○自由民主党

・北朝鮮問題に真剣に取り組んでいるから
・消費税 10%への増税で教育の無償化を実現し、待機児童問題の解決へと繋げるという政策があるから
・北朝鮮のミサイル問題などが世間で話題になっている世の中なので、ミサイルから日本を守って欲しいからです。
・優しい政策など幅広く行ってくれているし、これから先のことをよく考えてくれているため。
・テレワークやマタニティワーク、身体障害補助法などがとても良いと思い、すすめていってほしいと思ったから。
・北朝鮮の脅威から守る。これは他の所でもありましたが、今のところこれで日本もまだ大丈夫だし。
・国を守り抜くために必要な条件が揃っている。
・消費税を引き上げ、国を豊かにするという方針が自分の意見に合っているから。
・教育費の無償化や他国などの問題などを色々考えてるから。
・子供のために教育費が無料だったり、家庭に優しいから。
・安倍さんは一番実行力があるから。
・万一、自民党以外が当選した時、グダグダで信用できないから。
・教育の無償化はあった方が良いと思った。それによって少し増税するなら良いと思った。また北朝鮮への対応も気になった。
・国をテロなどから守るというのが良かったから。
・原発をなくすということは、エネルギーや働き場所の問題に発展してしまい、しっかり未来を考えられていると思ったから。
・国民のことを考えていて、これからの日本の未来もそうですが、今の問題に向き合っているから。
・経験豊富だから
・他の党は日本の問題を解決できそうにない
・憲法改正(自衛隊の立場の明記)と経済のマニュフェストが日本に必要と考えるから

〇立憲民主党

・憲法改正は今までの日本を大きく変えてしまうし、平和主義からずれてしまうので反対です。また原発ゼロは二度と同じことを起こさないためにも必要だと思いました。
・憲法改正の反対をしているところや教育無償化のところがこれからの日本にはとても大切だと思ったから。
・立憲民主党の人達は、希望の党に行くという選択肢もあったけれど、信念を曲げずに頑張る姿がいいなと思ったから。
・単純に公約が自分の考えが近かったから。
・女性の社会参画を拡大するというのをテーマに政策を行っているので、この政党が主流になれば、社会も変わり、面白くなるのではと思って投票しました。
・今の日本は北朝鮮と戦うか、平和を目指すかに分かれていて、私は平和な方が良いと思ったから。また政策の中で、行政の情報公開というのがあり、国民が安心できると思った。
・原発ゼロ基本、消費税引き上げ反対など自分と意見が同じということ、現場のリアルな声を大切にしているというのが国民のことを一番に考えていると思う。
・消費税を 10%にいきなりあげずに徐々に上げるのは国民の立場からではいいなと思いました。
・高校等の授業料無償化という自分たちに身近なことを考えていて、また原発ゼロに対しても考えていて、戦争に逆戻りにならないよう憲法改正に反対しているから。
・未来のことと今のことをしっかり計算して実行させる行動力がすごいから。
・安倍政権は最近何か隠しているので、信用できなくなった。
・キャッチフレーズの「真っ当な　政治」に大いに期待したい。

〇希望の党

・議員の給料の減額することで、すぐに消費税増税をしなくても可能な限り国民の負担がかからないようになっているから。また

日本の地位協定の見直しや高校までの教育無償化も良いと思いました。
・消費税と憲法改正についての問題などについてテレビなどで語っている中でとても説得力があった。
・消費税 8%の凍結と原発をなくすというところで選んだ。
・自民党と迷ったが、一般人にとって消費税の 10%の引き上げが痛いのでこちらにしました。
・私は待機児童問題を解決してほしいと願っているからです。希望の党は、保育園幼稚園の無料化と言っていて賛成だからです。
・希望の党の政策が私の考えに近い気がしたからです。例えば消費税の増税を凍結など、国的には良くても国民側が辛いことを考えてくれている気がするからです。
・私も守りたいものがあるので、「守りたいものはしっかり守る」の言葉に惹かれました。
・９つの対策を考え、また日本のためになるものが多いと思います。その中でも消費税増税凍結というのに賛成します。
・北朝鮮問題も真剣に考えているので良いと思います。
・議員定数議員報酬の削減で、税金が無駄なことに使われないと思うから。
・不正があるような見苦しい政治を変えてくれる願いを込めて。
・新しくできた党ということで、何か別のことを考え出してくれるのではと期待している。
・国民の安全や生活を守るために広い範囲で公約を出しているからです。
・原発ゼロ という私と同じ意見でもあり、教育をどのように変化させるのか気になったからです。

〇公明党
・私は税金の増加の反対と高齢者問題、教育負担の三つに注目し、それに合ったのは公明党でした。
・10%引き上げと同時に軽減税率という政策は、「増税は賛成」という自分に合っている。
・教育費軽減も必要だと思っていたので。しかし原発ゼロにしてほしいというのと、憲法改正はしないということを政策に入れてほしい。
・教育支援がかなりあるから。
・高齢者にも優しいから。
・私の選ぶポイントだった消費税の問題、そして学校の教育費の無償化を特に取り上げていたのが公明党だからです。
・どこの党も掲げている憲法改正やアベノミクスの活性化にはあまり賛成できなかったり、よくわからない部分も多いので、そこにはあまり大きく触れていない公明党を選びました。
・大学進学や保育園などの無償化など若者のサポートなり、過疎地域も助けるなど、多くの良いことがあった。
・消費税 10%に引き上げられても、教育負担を軽減するならいいと思い投票しました。
・自民公明以外は安倍政権を退場させることを第一優先になっているので、政策は二の次になりそう。
・教育費負担の軽減や軽減税率の円滑な導入の意見が同じだったから。
・軽減税率による政策や学生への様々な政策が良いと思い、具体的だったため。
・教育負担の軽減、消費税など大人にしかわからないようなことだけじゃなく、広い年代でこの世の中を見ているから。
・教育無償化、実質無償化はあまり良くないと思いましたが、消費税率 10%に引き上げは良いと思いました。
・低年金受給者への支援が良い、低年金受給者が増えると僕らがその人たちを支えるのに負担がくる

〇日本共産党
・長時間労働をやめるという意見と増税をしないという意見があっていて、労働は短時間の方がやっぱり集中できるので良いと思うし、増税については今でも十分に経済が回っているので別に増税しなくても良いと　　思うから
・長時間労働や消費税などの、私が解決してほしい問題を解決してくれると思ったから。
・医療自己負担ではなく当たり前に窓口無料を目指すという政策が良いと思った。
・地方の中小企業、農業の回復や憲法九条改正の中止、増税の停止、8 時間働いて普通に暮らせる社会を実現してくれる可能性が高いから。

・憲法改正、原発再稼働と消費税、核兵器についての考えが自分の考えとよく似ているから。
・ 私たちに関わりが多い政策が多いと思ったから。
・消費税が増え続けると国民は苦しくなるし、大変になる。最近長時間労働が問題になっているから、それを解決してほしい。
・消費税 10%を中止し、大企業の実質負担率を中小企業と同じにすることで差をなくし、憲法改正させないで立憲主義を取り戻すというところがいいと思った。
・社会保障、教育、子育て、若者優先に 8 時間働けば普通に暮らせる社会という政策がとてもいいと思ったから。
・消費税 10%の中止、少子高齢化が進んでいるのでそういった社会保障やミサイル対策がいいと思ったから。
・北朝鮮の対話による平和的解決というフレーズが響いたから。
・核ミサイル開発を許さない、戦争を絶対に起こしてはいけないから。
・国民のことを考えていて、一番日本の未来を現実的に考えていると思ったから。
・長時間労働に反対、核や憲法改正に反対、軍事費を減らし社会保障に回すことなどに賛成だからです。
・北朝鮮問題や消費税 10%中止などに力をいれ、問題を解決しようとしているから
・原発の再稼働と輸出を止め、即時原発ゼロを求めているから。
・先進国と同じく医療費の自己負担をなくし 窓口無料目指しているから。
・経済、財政、働き方のところが一番保障が手厚かった
・ブラックバイトの廃止

〇日本維新の会
・教育についてよく考えていた。特に幼児から高校大学全てにおいて考えているから。それから大阪ではもう動き出している部分もあるから、本当に実行するという信用ができる。
・「暮らし応援 4 つのチャレンジ」というので、一番目が消費税 10%中止というものです。消費税 10%はきついので、賛成です。二番目に、子育て・教育と少し若者を優先にした考えが、 少子高齢化の日本には向いていると思います。
・消費税増税に対する意思表示と税の利用方法が具体的であったから。
・希望の党は目標だけ変えていて、具体的になかったから。
・消費税増税を凍結させ、なおかつ高校・大学の授業料を無償化にしているため、これからの 10 代 20 代が活躍できる場がある。
・国会議員の給料削減
・マニュフェストに共感できた

〇社民党
・政策の中に高校までの無償化、憲法改正反対が出ていた。二つとも僕のもっていた心配なことを解決できそうだと思ったからです。
・人間らしい働き方の実現や消費税 10%反対がいいなと思ったから。
・「過労死許さず」というところに目をつけて、本当になくなればいいと思ったから。
・働き手にとって、苦でない環境と一人ひとりの個性重視、共生する平和を目指すのが良いと思ったから。
・ブラックな会社などがあるし、残業代ゼロ円なのに夜遅くまで働かせるなどひどいと思ったからと、このようなことで自殺したりしている人は可哀想だからです。

〇幸福実現党
・8 から 5%に下げてくれるところが嬉しいし、自分の国は自分たちの力で守りたい。
・税金が少し下がるから。
・この人の軽減税率の円滑な導入が同じ考えです。
・他の党にはなかった消費税減税 5%がとても印象に残り、また自分の意見にも一番近かったから。

・減税しても前は5%でやっていけていたので、５パーセントの方が良いと思い、それをコメントしている幸福実現党にしました。
・北朝鮮と戦う強い意志が見える。

＊(生徒)模擬選挙で一票を投じた感想　※抜粋

・大人になった気分を味わえた。(中学生)
・政治への関心が深まった。(中学生)
・親の選挙へついていったことがあったけど、自分で体験してみるのでは全然違った。(中学生)
・自分と意見が違う人がいて、支持する政党は人によって違うことを知った。(中学生)
・投票する時間が少なかった気がする。(中学生)
・自分の意見を政治に反映させるということは、国民の義務だと思った。(中学生)
・まだ選挙権はないけど、リアルな体験ができてよかった。日本の政治にもっと関心を持とうと思った。(中学生)
・関心は深まった。でもよくわからない部分も多かったので、もっと勉強してからだったら少し考えが違ったかもしれない。(中学生)
・早く選挙権が欲しいと思った(中学生)
・楽しく政治に興味が持てた。選挙速報も楽しく見れた。(中学生)
・本物っぽい投票箱に投票するのが楽しかった。実際の時はもっと考えたい。(中学生)
・将来が楽しみ(中学生)
・正直な話、今の政治に対しては信頼が欠けているように感じる。それが投票率となって出ていると思うから、その辺りをしっかりしてほしい。(中学生)
・何を選べばよいか分からなかった。(中学生)
・選挙公報を見て自分の１票の重さが分かった。適当に選ぶのも投票しないのもあり得ないと思った。選挙権を持ったらその権利をちゃんと使おうと思った。(中学生)
・ニュースでは伝えられていない情報を知ることができて面白かった。(中学生)
・初めて自分も日本の国民だと実感した。(中学生)
・おおざっぱにしか知らない党もあり、今回の模擬選挙でどんな党がどんな目標を立ててこの国を動かそうとしているのかがわかって、とても勉強になった。(中学生)
・選挙って意外とわくわくする(中学生)
・新聞や選挙公報だけでは、立候補者のことが思ったより分からないことが分かった。(中学生)
・模擬選挙をする前は、選挙の形式や政党の名前も全く知らなかった。これを機に少し知識が増えてよかった。(中学生)
・自分の兄は毎年選挙に行っていないから教えてやろうと思った。(中学生)
・自分でも政治に対する見方が変わったと思う。(中学生)
・選挙の特番を見るようになった。街頭演説を初めて立ち止まって聞いた。(中学生)
・親と選挙について話す機会が作れた。(中学生)
・白票にしたいと思うぐらい実際の政治には選択肢がないのだと改めて痛感した。(中学生)
・投票する時に少しドキドキした。(中学生)
・中学生のうちからこうやって模擬選挙を行うことはとても大切だと思った。(中学生)
・正直今回の（実際の）投票率を見てがっかりした。せめて８０%はいってほしかった。(中学生)
・投票箱に用紙を入れる時異常なくらいテンションが上がった（箱がリアル）。意外と短時間であっさり終わってしまった。(中学生)
・私の周りの大人は選挙にあまり行かないので関心がなかったが、今回の模擬選挙で(中学生)
・自分の一票がこの先の日本を左右すると考えると、とてもプレッシャーが重くとても悩んだが、いい体験になった。（中学生）
・みんなそれぞれの意思があるのだから、もう少し選挙権を未成年にも与えられるように年齢を下げたらどうなのか（中学生）
・本当に投票しているみたいで満 18 歳になっても行きたいと思いました。(中学生)

・もう少しで 18 歳で選挙をするが、まだ全然政治に関心がないなと感じた(中学生)
・国民が国の政治に関わることのできる機会はとても貴重だ。決まってから文句を言うのではなく、国民が自分の手で決めるべきだと思った。(高校生)
・すばらしいこころみだと思う。ただ話し合いの場などをつくってしっかり等について考えさせて選ばせるべき(高校生)
・単に政策との一致度だけで党や候補者を決めるのではなく、様々な観点で投票しないといけないのを感じて大変だと思った(高校生)
・学年の他の人は 18 歳なのに、まだ 17 歳なのでむなしい(高校生)
・実際の選挙と似ていて困らずにできた(高校生)
・今までできなかった事ができて、大人になった感じがした(高校生)
・自分の 1 票で日本がもっと良くなればいいなと思った(高校生)
・模擬選挙と本選挙がほとんど同じ雰囲気だったのでいい準備になりました(高校生)
・初めての選挙は緊張したけれどやり方はつかめたのでよかった(高校生)
・模擬選挙に比べて本選挙はとても責任感がありました(高校生)
・自分が入れたところで変わらないと思っている同世代の人や、政治に関心がなくとりあえず自民党だし安倍さんに入れとこ、と言って適当に参加している人は考えを改めるべき(高校生)
・政経の授業で事前に学んでいたので分かりやすかった
・用紙の書き心地がすばらしかった(高校生)
・最高裁判所のやつが分からなかった(高校生)
・本当に選挙に行ったときに何に注目して投票すればいいのかを学ぶことができてよかた。(高校生)
・投票できるようになったら自分の一票に責任を持って必ず投票に行くようにしたい(高校生)
・明確な意志を持って決めるのは難しい(高校生)
・模擬選挙があったことで、家族と選挙について話すことも増え、政治への関心が非常に高まった。(高校生)
・今回投票を行ったことで、いつもなら TV が選挙ばかりで嫌になるけど、見るようになって少し興味が持てるようになった。(高校生)
・一瞬の作業だったけど、少し緊張した。(高校生)
・「学校でやったから！」と言って親にも投票を促した。(高校生)
・選挙権を持ったら選挙に行きたいなという気持ちが高まった。(高校生)
・正直政党の政策なんて実現されないから全く興味がない。大人になっても選挙に行かない。(高校生)
・投票所が遠かったら行かないだろうなと思った。(高校生)
・もしこの模擬選挙がなかったら、どんな党があるのかも知らないで終わっていたと思うから、選挙と関われる良い機会になったと思うし、またやりたいと思った(高校生)
・どこの党もあまりぱっとしなくて、若者の関心が低かったり、選挙に行かない理由が なんとなくわかった。(高校生)
・普段はあまり関心がないので、道で演説している人の話は聞き流していたが、今回はじめてちゃんと人の話を聞いた。意外とおもしろかった。(高校生)
・来年１８歳になると考えると、自分の意見を主張しなければいけないと改めて強く思った。これからより吟味して投票できるよう意識したい。このような機会を与えていただきありがとうございます。(高校生)
・政治に対して意見を持っていないので、そのためにも投票して参政権を行使しなければいけないと思った。(高校生)
・模擬選挙があったことで、政党の主張とかを比較したり、政治のことを考えたりできたのでよかった。(高校生)
・あまり関心が無い人は適当に選挙に来てもあまり意味ないなと。(高校生)
・毎回やればいいと思う。すべての学校でやれば、今後選挙権を得る子どもたちの投票率が上がるのでは。(高校生)
・本番の選挙でもこんなになるんだと思いました(高校生)
・あと少ししたら自分も選挙に参加するので、今日やったことは将来の役に立つと思います(高校生)
・すごくよかった。本番もこんな感じなんだなと思いました(高校生)

・今後選挙への意識を高めていくためのいい模擬選挙でした(高校生)
・消費税を深くまで分かることができたので、良かったです。１８になったら投票に行こうと思った(高校生)
・自分ももうすぐ１８になるので、選挙のことをしれてよかったです(高校生)
・選挙について知れたので、１８歳になったら投票したい
・政党を選んだ理由も、マニフェストを比較して、この意見が自分の考えに近い、といった内容がほとんどでした。(高校生)
・興味を持っていた分野は、時給など労働の分野、景気、消費税増税が中心でした。(高校生)
・地方の特徴かもしれませんが、北朝鮮のミサイルが２度北海道上空を通過したこともあり、安全保障面で、この政党じゃないとちゃんと対応してもらえないと思うという回答がどこのクラスでも複数人いたのも印象的でした。(高校生)
・英語で今回の選挙を考えたことで、よりいっそう深く学ぶことができた（＊英語の授業内で、2017衆院選　を実施）(大学生)
・普段は公約のことなどは考えたことがなかったが、改めて授業で、しかも英語で考えたことで、よりしっかりと学べた(大学生)

＊(教員)模擬選挙に取り組まれた感想、意見

・長年本校で模擬選挙を行っていた先生が退職され、今回から後任が模擬選挙の運営を行った。突然の選挙だったことも重なり、あわただしい準備のなかで模擬選挙の実施日となってしまった。選挙の争点や各政党の政策を紹介する「社会科通信」を事前に２回発行して、情報提供と関心の喚起をはかったが、生徒の投票率は学校全体で53%とあまり盛り上がらなかった。なかには、模擬投票のために、マッチングサイトを活用したり、街頭演説を立ち止まって聴いてみたという生徒もいた。選挙への関心を高めるという意味はある程度あったと思われるが、政策リテラシーを高める機会にするためには、今後はより充実した事前指導（政策を比較したり議論する時間を設けるなど）が必要であると感じた。
・突然の解散でしたので準備は大変でしたが、実施しないという選択肢は自分のなかではありませんでした。ただ公示後も選挙公報や政策比較表がなかなか公表されず、実施が遅くなったのが今回、最も困った点でした。
・CLIL(内容言語統合学習）－「政治学＋倫理学＋社会学＋英語」の一貫で取り上げました。これで2001、2005年と３回目の【英語の授業内で学ぶ総選挙】ですが、日本語で学ばせると「社会科（公民・現代社会）」となるのが全国的な常ですが、私の場合は、これを【英語】の授業内で行うことに意義を感じています。英語による専門用語も学ぶことができて、かつ、自分の意見を英語で述べることで、世界的に意思疎通ができるからです。

＊(教員)模擬選挙を実施した理由

・定例になっているので／毎回実施している／毎回行っているため／2009 年から国政選挙毎に実施している
・主権者教育として必要だと思ったから／主権者教育の一環として行うため／授業の一環として
・高校卒業までに投票の体験を積んでおくことが、将来の投票行動に重要だと考えたため。
・政治的教養を高めるため
・現実の社会を知る格好の教材だから。
・参院選・名古屋市長選挙でも行ったので（継続的な取り組み）
・実際の選挙を題材とした模擬選挙は何よりも大切だから
・生徒に有権者が本来採るべき行動を体験させ、政治や経済など社会の動きに関心を持たせるため。
・実際の国政選挙で実施するからこそ意味があると考えるから（政治課題・各党の主張を知り、自分も考えた上で投票先を考えるまたとない機会だから）（ただし 18 歳選挙権が実現したので、１６歳（１年生）（必修科目「現代社会」の授業）で実施）
・今回の衆議院選挙の争点が政治経済の生きた教材として政策論争をし、自分の意見をもって社会課題に向かう生徒を育成することになると考えたため。
・生徒の選挙に対する興味・関心を高め、政策を比較検討する力を身に付けさせるため。
・18 歳選挙権が実現し、中学生にも模擬選挙の必要性を感じました。

＊(教員)模擬選挙を実施した際の同僚、管理職、教育委員会、保護者などの反応

・同僚、管理職、教育委員会、選挙管理委員会等、すべてのファクターが協力的だった。保護者からは特に反応がみられていない。
・好意的である／大賛成
・公職選挙法等に十分配慮することを丁寧に説明し、理解してもらった。
・概ね好意的な反応でした。ただ、政治的中立への心配も一部ありました。
・管理職はとくになし、学年主任からは「何かトラブルが起きても教科の中の問題として処理してください」と言われました。
・管理職は政治的中立性だけ気をつけてくださいと言われた程度で特に制約は加えられなかった。
・模擬選挙における教員の言動には注意を払いましたが、実施において大きな障壁はなかった
・校長は「おもしろそうだね。やってみたら？」と言ってくれた。ちなみに学校の所在地の自治体の商工会議所の青年部が、毎年架空政党での模擬選挙の出前授業をしてくれており、本校でも、総選挙の少し前に３年生がその授業を受けていました（模擬選挙の実施は２年生）。
・校内のプロジェクトチームで取り組んだ。
・2003 年からずっと行っているので、恒例の行事となっており、特に目立った反応はなかった。
・昨年の参院選に続き２度目なので、職員会でも特に問題なし。保護者は模擬選挙実施の１年に家庭通知。
・管理職は政治的中立性がたもたれていることを確認していたので、好意的なとらえ方。生徒が帰宅後に政策について保護者と話をして熱心な反応があったとのこと。同僚は協力的な先生が多くて、設営などに尽力いただいたが、一方でどの行事に対しても否定的な職員は相変わらずな反応をしていた。
・同僚の反応はとくになし（意識は低い）。管理職は自由にやらせてくれた。新聞・テレビに取り上げられたため、教育委員会から「中立性を守るように」との連絡が校長にあった。保護者の反応は特になし。
・現所属先は、あまり協力的ではない。

＊(教員)実際の選挙をテーマにした模擬選挙を実施する上での課題や必要なこと

・準備に関する時間的余裕／時間の確保、公示から選挙までの授業時間確保が必要
・各政党の政策比較する授業が必要
・衆院選総選挙の場合、日程が急なこともあり、準備が大変である。また、選管の協力が得られない場合がある。
・公約集などの資料の確保、公職選挙法等への配慮
・模擬投票の実施の方法などの意見交流の場がほしい
・生徒の関心を高める準備、日ごろからニュースに関心をもたせる取組を行っておくこと
・模擬選挙を実施するときに投票用紙と投票箱の貸し出しを公示日以降になると選挙管理委員会に依頼しましたが、投票用紙の貸し出しはできませんでした。
・学校にとって都合の良い時期で行われるとは限らないが、今回は１０月後半ということで他の重要業務と重なりかなり多忙を極めた。
・公約比較表・選挙公報を早く手元に入手すること
・他教科も含めた職員の理解と協力。弁護士が候補者役になった模擬選挙を参院選前に実施したが、今回は講師費用が確保できず、自前になった。理科の実験費用のような主権者教育枠での予算の恒常的な確保があるとよい。
・今回、公示直後の 10 月 13 日に模擬選挙を実施したクラスと、投票日前日の 21 日に実施したクラスがあったが、結果が大きく異なった。複数の日程を設定することの是非を考える必要があると感じた。
・政治的中立を意識するあまり、準備に時間がかかりすぎる。当該選挙関係の記事を一括で検索できたり、提供していただくなど手軽に事前指導と模擬選挙を実施できるようにしたい。

＊主催者側(模擬選挙推進ネットワーク)としてのコメント

・模擬選挙の投票結果は、実際の選挙結果と同様に、自民党が第一党であり、36.3%を獲得した。2 番目に得票が多かったのは希望の党、3 番目が立憲民主党であり、2 番目以降は、実際の選挙結果と異なっている。「(教員)実際の選挙をテーマにした模擬選挙を実施する上での課題や必要なこと」のコメントにあるが、模擬選挙を実施した時期(公示日直後か、投票日近くか)によって、未来の有権者の投票は異なっているようである

・日本経済新聞や読売新聞などの出口調査によると、全体に比べて 18・19 歳の立憲民主党の比率が低く、共産党の支持率が高いとされていたが、模擬選挙においても同じような結果が出た

・今回の総選挙で自民・公明が勝利したことで消費税引き上げ容認と言えるが、未成年でも消費税引き上げを自民・公明の投票理由としてあげたものも多い。逆に引き上げ反対派は野党に入れているものの、数としてはやはり少なかった。

・国政選挙では 2 回目の「18 歳選挙権」となったが、急な解散ということもあり、学校行事(中間試験、修学旅行等)との関係もあって実施を断念する学校もあり、昨年の参院選の時よりも参加校・参加人数が減った

・「選挙」を扱うことだけが主権者教育ではなく、かつ、選挙直前になってから慌てて取り組むものでもない。実際の社会課題に当事者として常に向き合うことが大事である。幼少期から、主権者意識を育むことが、学校のみならず、家庭や地域で求められている。とともに、自分の考えを述べること、議論する体験を積み重ねることが、より重要になる

・熱心な先生方が取り組んでいる一方で、政治教育、主権者教育が特定の教員(主に社会科教員)任せとなっており、関心を示さない先生もいることが伺える。教育現場全体で、主権者教育に取り組むことが必要である

・「政治的中立性」に対して、過度に反応を示す管理職がいた。丁寧に説明をすることで納得していただけたが、教員向けだけではなく、管理職向けの主権者教育についての説明や研修が不可欠である

・「政治的中立性」は必要なことであるが、そこのみにとらわれると、多様な学びの機会を失わせてしまう。教育現場を“監視”するのではなく、教育現場で多様なモノの見方や考え方を取り上げることができるようなサポートが、教育委員会、選挙管理委員会といった行政機関のほか、保護者や市民、メディア、そして議員自身にも求められている。

・「若者の政治離れ」の一因には、「政治家の若者離れ」もある。政治家自身が、市民であり住民であり主権者である未来の有権者ときちんと向き合い、未来の有権者と対話を行うなど、より積極的な取り組みが不可欠である。最近は、中高生と話し合う機会を設けている議会の取り組みが複数出てきており、こうした議会の取り組みをもっと促進していくことが、若者の政治離れをくいとめ、地域の一員として自覚することにつながる